進捗状況の概要　【１ページ以内】

本事業は、上海海洋大学、韓国海洋大学校及び東京海洋大学（以下必要に応じ、それぞれ「SHOU」「KMOU」「TUMSAT」の略語を用いる。）の協議会において、OQEANOUS（オケアヌス）（Oversea Quality-assured Education in Asian Nations for Ocean University Studentsの略。ギリシャ神話に登場する海神(Oceanus)に由来）の名称を用いることを決定した。以下、本調書においては「OQEANOUS」又は「オケアヌス」の名称を事業名・教育プログラム名として使用する。

本事業を軌道に乗せるにあたり、質の保証を伴った学生の派遣・受入の円滑な実施のため、3大学合同のOQEANOUS協議会を5回にわたり実施した。平成29年6月には共同学位（ダブルディグリー）及び学生の単位互換に関する協定を3大学間で締結し、日中韓の各大学における大学院教育の独自性を保持した統一基準の単位互換システムであるCTSEA(Credit Transfer System in East Asia)ガイドラインを策定した。これらの協定及びガイドラインをベースに本事業は運用されている。

学生の派遣・受入を円滑に進める取組みの一環として、各大学の教員間の教育研究上のテーマについて相互理解を深めるとともに、留学希望学生と指導教員のマッチングのため、2回のRound Table Symposium（第1回：東京、第2回：韓国）を開催した。

これらOQEANOUSの運営基盤を確立するための取組みを踏まえ、以下のとおり学生の派遣・受入を行った。

■日本人学生の派遣

・STP（Short Term Program）：平成29年7月15日～26日に、上海海洋大学にてOQEANOUSサマースクール2017（テーマ：Use of the Oceans and Marine Resources for Sustainable Development、参加者総数41名）を開催した。本学からは大学院生7名と学部4年生2名を派遣し、各大学から派遣された教員による様々な分野の授業を中韓の学生とともに受講し、プレゼンテーションや活発な議論を行った。このサマースクールは、博士前期課程研究科共通科目として新設された「国際海洋科学技術サマープログラム」(2単位)の履修として、正規のカリキュラムにも位置付けられている。

・IJP（International Joint Program（国際協同教育プログラム））：平成29年9月～平成30年2月にかけて、韓国海洋大学校へ１名の学部生を派遣し、IJPの要件である6単位以上を韓国海洋大学校で取得し、単位互換を行った。

・短期派遣プログラム：DDPやIJPの参加につなげるため、平成29年3月に上海海洋大学に2回にわたり計19名の学生を派遣し、キャンパス見学、学生交流、研究室体験等を実施した。また、平成29年8月に大学院生1名と学部4年生3名が、また平成30年3月に大学院生2名と学部生7名が韓国海洋大学校に派遣され、キャンパスツアー、練習船・研究室見学、研究室体験等を行った。

■外国人留学生の受入

・IJP:平成29年10月　IJP一期生としてKMOUから2名の大学院生を受け入れた。

・DDP:平成29年10月　DDP一期生としてKMOUから1名、SHOUから2名の大学院生を受け入れた。

・短期受入プログラム：平成29年2月に韓国海洋大学校の大学院生9名が本学を訪問した。日本語模擬授業、造波水槽・回流水槽の見学や研究室見学を行った。

・その他：平成30年1月、KMOU-TUMSAT 共催の学術講演会を開催した。KMOU、と本学の大学院生が研究発表等を行うとともにKMOU主催のOQEANOUS事業説明会を開催した。

【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

平成28年度				平成29年度			
派　遣		受　入		派　遣		受　入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
3人	8人	3人	9人	10人	39人	10人	28人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【１ページ以内】

本事業の特筆すべき成果は、質保証を伴う単位互換のスキームを確立したことにある。特徴的な取組みとしては、新たに作成したCTSEAガイドラインに基づき、Learning Agreement、コースカタログ等による単位互換制度の的確な運用、及びOQEANOUSプログラムの評価に資するCTSEA Survey form（調査様式）の策定が挙げられる。中間評価期間においては、これらの取組みを具体化するための調査・協議等に継続的に取り組むとともに、学生の派遣・受入を円滑に、かつ、十分な教育効果が得られるよう実施した。特に3大学が持ち回りで運営するSummer Schoolは、大学院の正規カリキュラムにも位置付けるなどオリジナリティの高い取組みといえる。

本事業では、ECTS（European Credit Transfer System）及び同等のラベル取得校等への学生交流への発展を目指しており、ECTSについての情報収集のために、ECTSラベル取得校であるトルコのエーゲ大学から、ヨーロッパ諸国のECTSに精通した教職員を招聘し、ECTSの概要やエーゲ大学における取組状況等の説明を受け意見交換会（平成29年2月10日）を行った。さらに、国際担当理事及びその他教職員がノード大学（ノルウェー）を訪問し、ECTSの概要、ノード大学がECTSの認証を取得した理由及び効果、質保証のための取り組み等の説明を受け、意見交換を行った（平成29年3月14日）。これらの情報を参考に、ヨーロッパの「エラスムス計画」の手法を取り入れつつ、各国の大学院教育の独自性を保持した三大学統一基準の単位互換システム単位互換制度であるCTSEA（Credit Transfer system in East ASIA)ガイドラインを作成した。さらに、ECTSと同等性のある単位互換制度を実現するため、学生ごとに履修計画・単位互換の詳細について、学生と受入・派遣両大学の合意文書とするLearning Agreement等の共通様式の作成、単位互換対象科目を明示し、学生の履修に資するためのコースカタログの作成を行った。コースカタログの様式は、第5回OQEANOUS協議会で検討の上、3大学間で入力の仕方も含め共有した。教員から提出されたコースカタログは、各大学の担当事務局で取りまとめられ、専用ホームページ上でLearning Agreement等の様式及びCTSEAガイドラインと共に公表されている。これにより、本事業参加希望の学生が派遣前より授業を選択し、Learning Agreementにて事前に授業の登録予約をすることが可能となっている。また、本Learning Agreementに記載された授業に関しては、修了の際は必ず派遣及び受入両大学間にて互換単位について証明されることが取り決められている。ホームページに関しては、そのほか本プログラムを希望する外国人留学生がホームページを見れば申請方法が一目で解るよう、また、東京海洋大学での学生生活がすべて判るよう奨学金、宿舎、生活面の情報等について情報を充実させている。

STP(Short Term Program)についてはSummer Schoolとして3大学が持ち回りで実施することで合意し、平成29年度は上海海洋大学の担当で実施した。3大学の学生が1大学に集まり共通開講される授業を受けることによって、参加学生は異文化交流をしつつリサーチ及びプレゼンを行うなど、大変充実した内容となった。成績評価に関しては3大学の教員があらかじめ定められた評価基準に基づいて行っている。それぞれの大学がSummer Schoolに該当する科目を新設し2単位付与している。この単位は、CTSEAで設定されたWork Load（1単位45時間）を基準に設定されており、本学では、「国際海洋科学技術サマープログラム」(2単位)の履修として、修了要件の選択科目の単位数に加えることを認めている。特に帰国前、帰国後アンケートの実施によりプログラムの改善が図られている。DDP(ダブルディグリープログラム)は、渡航前に希望学生とその指導教員及び受入予定指導教員が研究計画及び単位取得計画について十分に打合せをしておく必要があるため、渡航前に現地に赴き、研究室見学の実施や調整をコーディネーター同席のもと行い、オケアヌスオフィスで管理している。また、共同学位に向けた指導における前提として3大学の教員同士のマッチングが非常に重要なことから、Round Table Symposiumを3大学持ち回りで実施し、教員同士が直接情報交換を行う機会を設けている。

本事業の教育の質の保証に関しては、本プログラムの評価を客観的に行うための調査様式CTSEA Survey formを3大学で作成した。加えて、調査方法について議論の上共有し、Surveyを実施した。調査方法としては、特に学生に公表しているそれぞれの科目のコースカタログにおけるWork Loadのとおりに授業が実施されているかについて、教員が設定したWork Loadと学生が実際にかけたWork Loadとの差についての調査結果をまとめ、各大学に設置されたQA(Quality Assurance)委員会にて分析した上で、授業科目の改善に反映させることとしている。